

向き合おう、災害時の性暴力

災害時に起こる性暴力として、「対価型(地位利用型)の性暴力」があります。避難所のリーダーや生活を援助する親戚など立場の強い男性が、支援をする見返りとして性的な行為を強要するものです。脆弱な立場に立たされた女性(夫と死別・離別、未婚、シングルマザーなど)が特に標的にされがちです。

また、夫や交際相手から受けるDVも災害時の暴力に該当します。平常時にも夫等からDVを受けていた場合は、災害発生後にも継続的に暴力を受ける傾向があり、暴力の種類が変化したり、より悪化することもあります。

災害時に性暴力が起こることは、信じがたいことかもしれません。阪神淡路大震災の起きた1995年当時、性被害はデマだとされ、被害者をバッシングする声がメディア等で多くありました。2011年の東日本大震災では警察官らによる避難所等の見回りがなされ、被災地での性暴力対策が前進した面もありますが、性暴力の根絶には至っていません。

性暴力を受けた苦しみを周囲から理解されず、被害者が二次的な被害を受けるケースも少なくありません。どんな状況下であっても悪いのは加害者です。私たち一人ひとりが、災害時に性暴力が起こりうる事実を知り、「女性や子ども(男性も被害を受ける可能性があります)に対する性暴力は許されない」という認識を広げていくことが大切です。

参考資料: 東日本大震災女性支援ネットワーク「東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書」(2015年1月改定ウェブ版)

ひとりで悩まず、相談してください。



性暴力救援センター・大阪SACHICO 072-330-0799

(24時間受付)

[すてっぷ相談]

- 女性の生き方総合相談・ガールズ相談 06-6844-9820
- 男性のための電話相談・ボーイズ相談 06-6844-9111

災害などの非常時には誰も気持ち不安定になりがちです。そんな時、あなたの気持ちを話せる場所があることを忘れないでください。

第3次豊中市男女共同参画計画及び豊中市地域防災計画には、すてっぷの役割として「災害時における女性の悩み・暴力に関する相談サービスを提供する」とされています。

豊中市 危機管理課に聞いてみました!

危機管理課とは、市民の皆さんの安全を守るため自然災害や大事故などが起こった時の対応をする部署です。防災に関する情報の収集・啓発も行っています。

防災の取組み、いろいろおしえてください!



Q 阪神淡路大震災を経て、市の防災の取組みに何か変化はありましたか。

A 豊中市は地理的に阪神地区と隣接していることから、大阪府内では最も甚大な被害を受けました。この教訓から、当市では大災害が発生した時に致命的な被害を負わないように、また速やかに回復できる地域づくりの実現のため、「豊中市強靱化地域計画」を策定しました。被災による直接死を最大限に防ぐ、救助・救急の活動を迅速に行うなどの事前に備えるべき目標を設定し、その達成に向けた取組み(危機管理課では、備蓄管理、企業との協力体制の強化、防災啓発など)を実施しています。

Q 地域防災計画では、男女共同参画の視点を取り入れた災害・防災の推進がされていますが、特に心がけている点はどのようなことでしょうか。

A 地域では避難所運営等の協議をする場で、女性の意見や提案を積極的に取り込んでいくようにしています。危機管理課では備蓄物資の生理用品について、種類を増やした方がいいと女性職員から意見をもらい、実際に見直しがされました。日ごろから女性が参画しやすい環境を一人ひとりが意識してつくるのが、災害時の適正な避難所運営等につながると思います。

Q 備蓄用品で女性向け、子育て世代向けを意識したものはありますか。

A 女性向けには生理用品や尿漏れパッド、子育て世代向けにはおむつや哺乳瓶があります。その他備蓄物資と同様に必要と想定される数量を備蓄し、定期的に新しいものと入れ替えをおこなっています。

Q 豊中市の自主防災組織の活動における女性の関わり方について教えてください。

A 豊中市では2023年9月現在で、167団体の自主防災組織があり、防災訓練や防災講座を通しての学習など、多くの団体が精力的に活動されています。そのうち、女性が代表者となっているのは約30団体です。比率としては少ないので、さらなる女性の参画を促すことが課題といえます。

Q 今後の展望について教えてください。

A すてっぷを含めた外部の機関とより連携し、女性・高齢者・障害者など多様性を意識した防災活動や啓発活動を充実させていき、立場や状況の違う人たちのことを考えて行動する、という意識づくりを進めていけたらと思っています。